食卓のない家

MARUGENビル作品
製作:川本源司郎

監督:小林正樹
原作:円地文子
(新潮社刊)

仲代達矢
・
小川真由美
・
中井貴惠　中井貴一

平幹二朗
竹本孝之　隆大介
真野あすさ

大竹しのぶ
・
岩下志麻

人はみな、人から生まれた。

作品提携:俳優座映画放送　製作協力:株式会社ヘラルドエース
配給:松竹富士株式会社

Photo by HIROKI HAYASHI

'85ヴェネチア国際映画祭正式出品作品

監督 小林正樹

食卓のない家

MARUGENビル作品

食卓――家族の者たちがともに集い、食事をとる場所――は家庭の象徴とも言えます。そこには、父母と子供たちがいて、日々、さまざまな喜怒哀楽が交差し合う一家団欒の場です。しかし同時に、家族それぞれの成長や変化、あるいは何らかのトラブルに家族が巻き込まれたとき、一転して食卓は家族の闘争、崩壊の場にもなりえます。普段、何気なく座っている食卓も、世代と個性の違う人々が、それぞれに社会との関わりをもちながら、いっしょに暮らしている家において、実はきわめて微妙なバランスによってその均衡が保たれているのかもしれません。

「たしかに私は、あの浅間山荘事件に刺激されてこの作品を書きました。しかし、構成は全てフィクションであり、実在のモデルがあるとすれば、それは私の内部にあるものでした。私にペンを取らせたのは、現代のどの層にもある、社会対家庭の問題なのです。」 '79年に出版(新潮社)された同名小説、原作者の円地文子のことばです。

この映画は、その食卓がバラバラにぶち壊されるほどの事件に直面した、その家族の、その父親の、ドラマです。

舞台となる鬼童子(きどうし)信之の家は、長男・乙彦のあの事件から、一年が過ぎていた。事件直後、犯人の一人の家として鬼童子家は世間の非難の嵐の中に晒された。数々の投書や中傷、夜中に石を投げ込む悪質な嫌がらせさえもあったが、時の過ぎた今、世間は冷静を取り戻している。しかし、信之の家には壊された窓ガラスのひび以上に大きく、複雑なひびが残されていた。妻の由美子はノイローゼとなり、入院している。長女の珠江は婚約を解消され、その明るい性格に暗い影を落している。浪人した次男の修は全てに白けきっている。ひとり食卓につく信之の脳裏にさまざまな思いが浮ぶ。信之は世間の非難とともに家族からも非難されていた。他の犯人の親たちが、謝罪し、ある親は勤めを辞職し、ある親は自殺した。しかし信之の態度は他の親と違っていた。――家族は関係ない！乙彦個人の問題だ……これからの裁判によって真実が裁かれる――信之は世間に対し、一切の謝罪らしき言葉は洩らさなかった。しかし、この信之の姿勢こそが、その後の鬼童子家の全てでもあった。今も拘置所で信之に対し、尊敬を抱きながら、頑なな距離をもって対する乙彦。母親としての子に対する想いを夫にささえられることなく、精神を病み、又、夫婦としての夫の愛に疑惑を抱きつつ自殺していく妻。信之の意に反する形で結婚し、日本を離れていく娘……。

――わが家の食卓をひっくり返したのは、乙彦ではなく、この私かもしれない――。

●キャスト

鬼童子信之――仲代達矢
〃 由美子(妻)――小川真由美
〃 珠江(長女)――中井貴惠
〃 乙彦(長男)――中井貴一
〃 修 (次男)――竹本孝之
川辺弁護士――平幹二朗
沢木香苗――真野あずさ
沢木朗(香苗の兄)――隆 大介
朝野みよ子(乙彦の恋人)――大竹しのぶ
中原喜和(由美子の姉)――岩下志麻

ドラマは家庭崩壊の危機の中で、さまざまな矛盾に悩みながらも、自分の意志を曲げず戦い通そうとする男を描いていく。やがて、乙彦は同志によるハイジャックの強迫のもと、超法規下で日本を脱出して行く。二度と日本へ帰えることのない旅へ。京浜島で乙彦の乗った飛行機を見送る信之の胸に去来するものは――。信之はひとり、乙彦がかつて愛したという女性を、その息子を訪ねていく。

主人公の信之に仲代達矢、その妻・由美子に小川真由美、乙彦と珠江に中井貴一・貴惠姉弟、次男・修に竹本孝之で鬼童子家を構成し、厚生省の課長という超キャリア・ウーマンであり、三姉弟の世話をやきながら、信之に好意を寄せる由美子の姉・喜和に岩下志麻、信之と乙彦をつなぐ弁護士・川辺に平幹二朗、旅先で知り合い、次第に信之に想いを募らせる民俗学の研究生・沢木香苗に真野あずさ、乙彦が愛した女性・みよ子に大竹しのぶと豪華俳優陣が顔を揃えている。

撮影・岡崎宏三、美術・戸田重昌、音楽・武満徹と一流スタッフを配し、メガフォンをとるのは、「東京裁判」の巨匠・小林正樹監督。製作総指揮は「地平線」に続き、これが第二作目となる川本源司郎である。

製作・川本源司郎/作品提携・俳優座映画放送/配給・松竹富士株式会社
製作協力・ヘラルド・エース/企画・佐藤正之、原 正人/プロデューサー・岸本吟一、大志万恭子
監督・小林正樹/原作・円地文子(新潮社・刊)/脚本・小林正樹/撮影・岡崎宏三
照明・下村一夫/美術・戸田重昌/録音・西崎英雄/音楽・武満 徹/編集・小川信夫
サントラ盤・CBSソニーレコード

11月2日(土)よりロードショー
特別ご鑑賞券一般¥1200/学生¥1100発売中！

丸の内ピカデリー1	新宿ピカデリー	横浜ピカデリー	川崎グランド1
(201)2881	(352)1771	045(261)2886	044(211)6125

日・祝	10:00	平日	12:50	3:40	6:30